

## 第2回-I:「上智大学におけるバリアフリーの現状と実現に向けて」

○研究代表者 総務局総務・経営企画グループ 千野雅裕

○研究メンバー（教員3名×職員7名）

文学部史学科 准教授(学生センター長補佐) / 総合人間科学部社会福祉学科 教授 / 理工学部情報理工学科 准教授  
総務局インフォメーションサービスオフィス マネージャー / 財務局管財グループ グループ長  
学術情報局研究支援センター センター長 / 学術情報局研究支援センター チームリーダー  
総務局総務・経営企画グループ / 学生局学生センター

○研究テーマについて

高等教育段階(特に大学)における障がい者を取り巻く環境は年々変化している。例えば、2011年8月施行の障害者基本法の改正においては、「可能な限り障害の有無にかかわらず共に教育を受けられるよう配慮すること」が規定された。更に、現在文部科学省に専門部会が設置され、支援のあり方を議論している。

また、2012年9月、文部科学省は、現在障がいを持つ子供の通学先が「原則として特別支援学校」と定められている法令を改正し、普通の小中学校に通学しやすくする方針を固めたとの発表を行った。今後、法令の見直しにより、障がいのある小中学生が普通の小中学生と一緒に過ごすケースはさらに増えると想定され、高等教育機関である大学にも同様の要請が高まることも予想される。

このように、今後ますます大学における障がい者支援が求められていくであろう。従って、本学としても今後十分な支援体制を整えていく必要があると考え、今回の研究を行うこととした。

○研究内容

今回の研究では、次の通り本学の実態を調べた上で、改善案について検討した。

- ①学内の教職員による支援の実態等(ソフト面)や施設・設備・備品の整備等(ハード面)を調査し、問題点を抽出した。
- ②他大学における取り組み体制について、先進的に取り組んでいる大学、取り組みを始めた大学、その中間の大学、の3つのカテゴリで調査・ヒアリングを行った(3大学への視察訪問及び関係者へのインタビュー等)。
- ③ ①②をふまえた改善提案を行った。

## 第2回-II:「学校法人における管理会計のあり方と本学への導入について～確固たる財政基盤の構築に向けて～」

○研究代表者 財務局経理グループ長 渡邊真実

○研究メンバー（教員1名×職員6名）

経済学部経営学科 教授 / 財務局経理グループ チームリーダー / 国際連携室 チームリーダー  
財務局経理グループ(2名) / 学事局学事センター

○研究テーマについて

学校法人における管理会計のあり方を検討することから始め、本学に最適かつ実現可能な形で導入するためのきっかけを作ることを目的とした。

私学を取り巻く環境の厳しさが増していく中、学校法人における財務の重要な役割・目標は、ステークホルダーに対する財務情報の公開のみならず、最小のコストでいかに教育・研究水準を維持・発展させていくかである。この役割・目標を達成していくために、対外的な報告を目的としている財務会計に加え、経営戦略の立案や各種意思決定を効果的に行うための管理会計の手法を導入することで、PDCAサイクルを創出し、より投資対効果の高い事業計画が立案・実行されるようにする。またその積み重ねにより、教育・研究成果の最大化と安定的な財政基盤の構築を両立させていくことを可能にして行きたい。

○研究内容

本研究では、「管理会計研究、先行事例研究」と「研究結果の整理、分析、本学への制度導入の検討」の2段階に分けて研究を進め、その上で実現に向けた提言をまとめた。

- ① 導入…経営戦略の立案や各種意思決定を効果的に行うための管理会計について、理解の深化及び学校法人におけるあり方を検討
- ② 展開…本学における有効な管理会計のあり方とは(最適かつ実現性の高い管理会計手法の検討)
- ③ 提言…課題の実現に向けて、「中期財政計画」・「部門別収支管理」・「事業計画別収支管理」(\*連動フロー)への取組みを提言

## 第2回-Ⅲ:「続・ペーパーレスによる省エネ業務フローの構築

### －創立100周年事業としての教職員・学生ポータルへの導入を目指して

○研究代表者 学事局学事センター チームリーダー 中條淳久

○研究メンバー (教員2名×職員13名)

神学部神学科 教授(総務担当理事) / 理工学部機能創造理工学科 教授(総合メディアセンター長)

学術情報局総合メディアセンター センター事務長 / 学術情報局総合メディアセンター 主幹 / 学術情報局図書館 主幹

学事局学事センター 主幹 / 人事局人材開発グループ チームリーダー / 人事局事務システムグループ チームリーダー 人事局事務システムグループ (2名) / 学事局学事センター / 学術情報局総合メディアセンター (3名)

○研究テーマについて

前回からの継続申請。前回の研究では「情報伝達の円滑化」、「紙による業務負荷」、「縦割り業務」、「情報管理の一元化」、「情報共有の適正さ」の5つのキーワードに対して、ペーパーレス化という観点で研究し、システム化の推進と組織の再編が必要であると報告した。今回の研究では、「情報管理の一元化」、「情報伝達の円滑化」、「情報共有の適正さ」について詳細に調査を行ったところ、3つの課題が浮かび上がった。それは、①分散するID、②業務の実情に合わないシステム、③機能の未活用である。前回報告書では、業務の省エネ化とペーパーレスによって、費用や業務負荷の軽減を主眼においていたが、本報告書では、①から③の課題に対して「繋ぐ」をキーワードに解決策を提案するとともに、将来の上智大学の情報システムのあり方を検討し、「上智大学の価値を創造する」ことに主眼をおいて提案していく。

- ・各業務システムを繋ぐ「マスターデータベース」
- ・教職員の業務を繋ぐ「グループウェア」
- ・学生、教職員、ステークホルダーを繋ぐ「全学ポータルサイト」

○研究内容

- ①現状調査(現状業務調査、学内IT環境調査(教研、事務)、関係部署ヒアリング等)
- ②先行事例及び他大学調査・分析(訪問およびヒアリング等)
- ③上記調査・分析における課題、問題点の洗い出し等
- ④省エネ業務フローシステム構築の検討とテスト導入
- ⑤次年度以降の作業スケジュール作成および中長期計画の策定

※研究代表者・メンバーの所属、職名等は研究報告当時のものになります。